

# 『スマート通勤おかやま2011』実施結果(9月26日～30日実施)

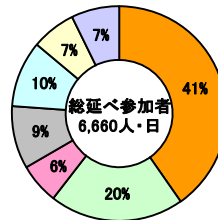
## 1. 実施結果

### ●全体の参加状況

参加事業所数	162事業所
参加登録者数	2,727人

162事業所、2,727人の方が「スマート通勤おかやま2011」の取り組みに参加されました。  
(昨年は152事業所、2,409人の方の参加でした。)

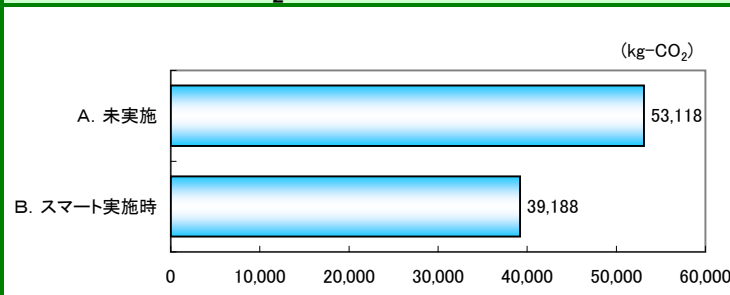
### ●変容交通手段の状況



- 自転車
- 時差出勤
- バス
- 自動車相乗り
- 徒歩
- 鉄道
- バイク
- 路面電車

自動車からの変容手段として、自転車への転換が約41%を占める。

### ●全体の期間中の「CO<sub>2</sub>」削減量と削減率



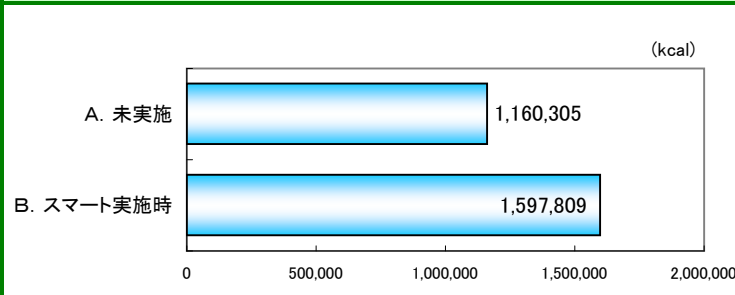
C. 削減量 (A-B) **13,930** kg-CO<sub>2</sub>

D. 削減率 (C/A) **26.2** %

約13.9t-CO<sub>2</sub>は、約995本のスギの木が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>量に相当するものです。

※スギの木は、樹齢50年程度のを想定。スギの木が1年間に約14kg(地球温暖化のための緑の吸収源対策:環境省林野庁)のCO<sub>2</sub>を吸収するとして試算。

### ●全体の期間中の「通勤時の体内消費エネルギー」増加量と増加率

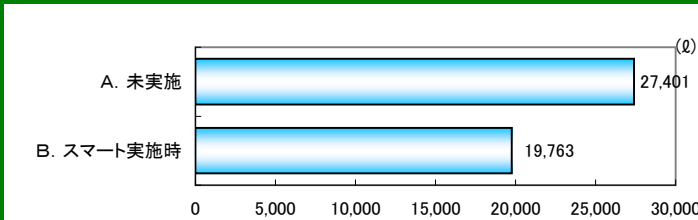


C. 増加量 (B-A) **437,504** kcal

D. 増加率 (C/A) **37.7** %

一人当たり平均した増加量約160kcalは、ジョギングを約21分間実施した場合の消費エネルギーに相当するものです。

### ●全体の期間中の「ガソリン」削減量と削減率



C. 削減量 (A-B) **7,638** l

D. 削減率 (C/A) **27.9** %

(1人当り約2.8l)

備考) 「A. 未実施」は、参加者のみなさんが通勤時に全てマイカーを利用した場合の数値です。

CO<sub>2</sub>排出量: 「平成14年度国土交通省白書」、「平成17年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

エネルギー消費: 第6次改定日本人の栄養所要量(厚生労働省)

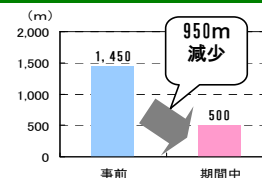
(※エネルギー消費は、年齢45.7歳(岡山県平均)、体重を男性65kg、女性を55kgとして平均して計算しています)

燃料消費量: 「メーカー公表車種別燃料消費率」、「平成17年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

### 【事業所皆さんの取り組みにより渋滞が緩和しました】

#### ●事前と期間中の渋滞長の変化

- ・ 観測場所: 国道250号新京橋西交差点
- ・ 観測方向: 西向き(岡山中心部方面)
- ・ 観測日時: <事前>平成23年9月13日(火)  
<期間中>平成23年9月27日(火)
- ・ 観測時間: 7時～10時(3時間)



図一 新京橋西交差点の渋滞長

## ● 参加事業所の状況

●参加者数		
第1位	旭川荘	363人
第2位	倉敷記念病院	193人
第3位	岡山ガス株式会社	179人
第4位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	130人
第5位	玉島信用金庫	121人

●「体内消費エネルギー」増加量		
第1位	旭川荘	約6.3万kcal
第2位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	約2.6万kcal
第3位	岡山ガス株式会社	約2.1万kcal
第4位	倉敷記念病院	約1.9万kcal
第5位	有料老人ホーム せいわ	約1.5万kcal

●一人当たりCO2排出削減量		
第1位	山陽美業株式会社	約57.8kg
第2位	岡山県美作県民局 津山家畜保健衛生所	約30.5kg
第3位	岡山県民共済生活協同組合	約18.0kg
第4位	有限会社カシマ興産	約17.8kg
第5位	株式会社荒木組	約17.5kg

●CO2排出削減量		
第1位	旭川荘	約1.68t
第2位	岡山ガス株式会社	約1.02t
第3位	倉敷記念病院	約0.66t
第4位	有料老人ホーム せいわ	約0.49t
第5位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	約0.36t

●ガソリン消費削減量		
第1位	旭川荘	約940リットル
第2位	岡山ガス株式会社	約548リットル
第3位	倉敷記念病院	約360リットル
第4位	有料老人ホーム せいわ	約261リットル
第5位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	約195リットル

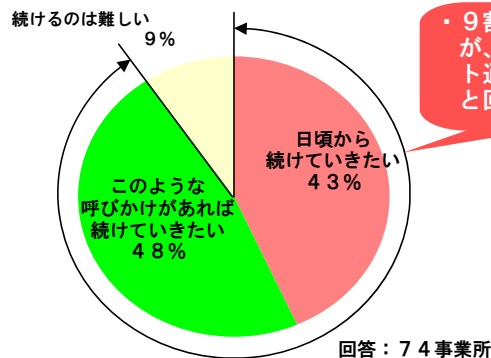
●日数別参加割合	
1日間参加	40.9%
2日間参加	17.0%
3日間参加	12.3%
4日間参加	11.1%
5日間参加	18.7%

## 2. 事業所の取り組み状況

### 【本取り組みに参加された方の声】

- 取り組みに参加してよかったこと
  - ・季節がら天気が安定している秋は、体力的・精神的にも取り組みやすい時期であり、従業員も積極的に参加することが出来た。
  - ・気候が良いため、自転車や徒歩での参加者が増えた。
  - ・参加企業が年々増加していることが良い。
  - ・車通勤では見れない景色が見られ、体力がついた。
  - ・社員の環境(エコ)に対する認識が高まった。また身近なことで環境に対する参画ができることをあらためて確認することが出来た。
  - ・通勤方法を見直すことで、環境負荷を軽減できるということに従業員が気づき始めていることが良かった。
  - ・実際自転車通勤をしてみると、朝はマイカー利用時よりも時間が短縮出来ることが分かった。
- スマート通勤を続ける上での改善・課題
  - ・郊外に立地しているため、外灯が少なく通勤路が暗い。帰宅時少し遅くなると暗いため、自転車通勤予定者が減少した。
  - ・参加が3回目になり、参加者にも「またか」的なムードが漂ってきましたので、次年度からは参加者が一人でも増えるよう、会社でなにか参加者に対してお得感を感じられるようなことが必要だと思います。
  - ・継続的に実施していくことが重要であると感じました。
  - ・今後、どのように事業所内での参加者を増やすか、またスマート通勤についての理解を深めるかが重要になっていると思います。
  - ・「スマート通勤おやかま」はすばらしい取り組みであるが、自転車通勤については交通事故発生時の大けがもしくは死亡災害の発生リスクが高くなるのが懸念される。自転車の整備と自転車の交通ルールの指導が必要と考える。
  - ・交通手段の転換を促すには、公共交通や自転車等の利用環境整備などハード整備も重要であるが、このようなモビリティマネジメントの継続的な実施により意識付けを行っていくことが重要であると感じています。

■今後も「スマート通勤」を続けていきたいと思いませんか？



・9割以上の事業所が、今後もスマート通勤を続けたいと回答。

### 【電動アシスト付き自転車を貸出した事業所の声】

- 電動アシスト付き自転車を貸出してみたの事業所の声
  - ・実施期間後に自転車通勤してくる人が増えました。
  - ・営業や業務でクルマを利用していたところに、自転車に替えたことからは、駐車場の心配等がなくなり従業員から好評であった。
  - ・これまで、クルマで行っていた場所へも自転車で行くようになった。
  - ・学生時代に戻って、健康的に渋滞もなく、良かった。
  - ・クルマから自転車に替えた事で、季節を感じる事ができ、また、高校生の子達に負けず、自転車で通勤できた。